

小塩山にツキノワグマ出現 !!!

小塩山のカタクリ保護区「炭の谷」へのイノシシ侵入対策として、2020年7月6日より侵入口付近に「ゴム動力の鳴子」と「カプサイシン噴射装置」をセットしていた。その有効性を検証するためセンサーカメラで撮影していたところ、7月10日、午後7時7分前後に全く想定外のツキノワグマの映像が撮影された。画像は20秒程度ながらきわめて鮮明で、胸の「月の輪」も確認できる。以下にキャプチャー画像にてその行動を報告する。なお、本個体のサイズは比較的小型と見られるが、後日現場にて検証する予定。

本件は7月20日の確認時点で西京警察署に通報済。

報告：西山自然保護ネットワーク・イノシシ対策班



センサーカメラが作動した時点ですでに鳴子の前にいたが、おそらく東側（手前側）、炭の谷ネット入り口方向から現れたものとみられる。

■鳴子：地面近くに張ったテグスを引っ掛けるとトリガが抜けて、強烈な金属音が響く。

■カプサイシン噴射装置：地面近くに張ったテグスを引っ掛けると、ボトルが反転し、化学反応で発生したガス圧によってカプサイシン懸濁液が噴射される。

はじめ鳴子に興味深々の様子で、いきなり立ち上がってしきりに匂いを嗅ぐ。

その後、左右を警戒しながら鳴子に手をかけたが、カメラの方向を向いた瞬間の映像では胸の「月の輪」がはっきり確認できる。



その後、鳴子を両手で支えながら、鼻をくっつけるようにしてさらに匂いを嗅ぐ。



およそ10秒間嗅いだ後、匂い嗅ぎを終了し、西方向に向く。



おもむろに西方向に歩き始める。



トリガ抜け
で爆音

ところが地面に張ったテグスを引っ掛けて、鳴子のトリガが抜け、バリバリという金属音が響き渡る。



クマは鳴子の音に飛び上がって驚き、振り向きもせず一目散に西方向へ走り出す。



次に、カプサイシン噴射装置のトリガを引っ掛け、装置のボトルが倒れる様子を確認できる。



カプサイシン噴射装置のボトルは反転してぶら下がり、ボトル内にガス圧が発生してカプサイシン懸濁液が噴射される。



カプサイシンは直ちに噴射されているが、クマがあまりに勢いよく走りぬけたため、クマの目や鼻にはかからなかった模様。



鳴子の爆音から3秒、あっという間に逃げ去った



依然としてカプサイシンは噴射されているものの、クマは通路をまっしぐらに西へ



鳴子の爆音からコナラの大木まで5秒で駆け抜けた。



コナラの大木を回ってネット沿いに北方向へと姿を消した。